

## 特別 連続 講演会

# 正教に受け継がれる キリスト教の精髓

第7回 5月4日 (木・祝) 午後1時～3時

## 神が一つにしたものを分けてはならない



「真理は一つ」とよく言われます。しかしキリスト教信者がそう言う時、通常とは違うことを示しているかもしれません。二千年前にパレスチナからギリシャの世界へ向かった使徒たちも同じ違いを感じたでしょう。イエスが生まれた時から、エルサレムで教会が誕生した日までの一連の出来事（キリストの到来）によって、神が一つにしたものとは…。聖師父たちは神によって一つとされた世界をどう表したのか、その四百年の歩みを解説します。すべての教会は師父のこの教えに基づいています。

「神が一つにしたものを分ける」とはどういうことか、  
「個人主義」と「罪の意識」の二つを取り上げてお話しします。

講師：ジュセッペ三木 一（半田ハリストス正教会信徒）

1943年ローマ生まれ。グレゴリアーナ大学で神学を学び、1971年カトリック「福音の小さい兄弟」会の修道士として来日、退会后名古屋で働きながら日曜学校教師として教会に奉仕。結婚後「三木一」として日本に帰化。知多半島阿久比町で1995年から聖書を読む会「プスチニア」を主宰。2005年にイオシフの聖名で正教信徒となる。

著書「師父たちの食卓で」（2015年（株）ヨベル）

会場：正教会 西日本教区センター

（京都ハリストス正教会） 入場無料

〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

問合せ Tel 075-231-2453

駐車場がないので公共交通機関か、近隣のコインパークをご利用ください。

